

薬

Art gallery

第八
展示室

売薬版画・富山絵・おまけ絵



日露戦争当時の軍人さん。左上段は初代の連合艦隊司令官伊東祐亨提督(明治39年(1906年)製)



牛若丸の図柄



若い浦島太郎



桃太郎ですが、お供は犬だけです。

この「薬 Art gallery」シリーズ「第一展示室」ではマッチをこ紹介しました。その中でかつて売薬行商人たちはおみやげとして「紙風船」をよく用いたことに触れました。置き薬屋さんがある文字や絵(が書いてある)「縁起のよいもの(がデザインされている)」などが満たされていることが大事ですが、今回取り上げました「売薬版画」も「紙風船」と共にそのような条件にマッチするおみやげアイテムの一つとして多用されました。「売薬版画」は富山絵・おまけ絵・絵紙なども呼ばれ、その始まりは江戸時代後期にさかのぼるようです。今回ご紹介する「売薬版画」は明治期に印刷された2〜3色からなる木版や石版刷りの素朴なもので、この素朴な色調と図柄が「売薬版画」の魅力だと思います。



桃太郎ですが、お供の雉がいません。



秀吉朝鮮出兵の際の加藤清正虎退治の図柄



かぜの神、熱病の神を追い払う鍾馗様の図柄



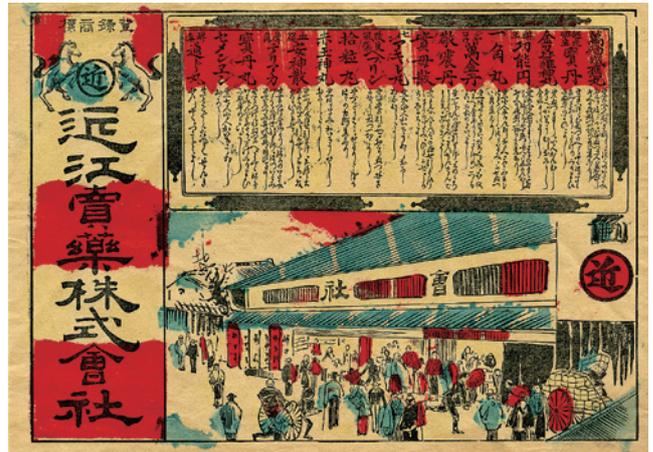
奈良の売薬「三光丸」と婦人



金のなる木。慈悲深き、正直、いさぎよき、養生よき、辛抱強きなどの枝の小判の葉っぱが生っています。



薬の宣伝パレードの図柄



薬種・薬舗大店(おおだな)の図柄

<参考資料> 玉川信明著『風俗 越中売薬』巧女出版/高橋善丸著『お薬グラフィティ』光琳社出版/『富山売薬の歴史』薬日新聞社